友好都市コーナー

紅葉まっさかりの中で

大町桂月が縁で姉妹都市に 高知県土佐町

第22回さめうらの郷湖畔マラソン大会開催

本大会は、早明浦ダムサイトから上吉野川橋をまわる一周11キロメートルコースと、上吉野川橋からの半周（6キロメートル）コースがあります。

11月12日(日)の大会当日は、遠くは茨城・大分など県内外から705人のランナーが集まり、ダム湖畔の紅葉を楽しみながらゴールを目指しました。

恒例となった地場産品のおみやげも大人気で、町民のかたがたからお米をはじめ柚や柿などたくさん提供していただきました。

コース整備、特別賞のご寄付など町民の皆さまの積極的なご支援とご協力をいただき、無事終了することができました。

姉妹都市とは

「山は富士山　湖は十和田　広い世界にひとつずつ」「住まば日の本　遊ばば十和田　歩きゃ奥入瀬三里半」の歌とともに、十和田湖や奥入瀬を世に広く紹介し、国立公園の指定に尽力した明治の文豪「大町桂月」が縁で、旧十和田湖町が高知県土佐町と昭和60年6月21日に「姉妹都市締結調印式」を行いました。

桂月の文学碑を訪ねて⑩

「道太郎の父泉八氏は、明治十六七年の頃、はじめて五戸よりの道を開き、船を造りて、小坂鉱山の貨物運搬を請負ひ、宇樽部を開墾せる人也。人家今二十四五軒、水田あり、陸田あり。農民は耕作の外、湖に漁し、山に猟す。泉八は、山上の一王者といふべき哉。」

[十和田観光三本木商工名鑑] より

桂月は明治41年8月、鳥谷部春汀の誘いで初めて十和田湖を訪れています。桂月ら一行は、八戸尻内駅で下車、五戸で講演会などをした後、三浦道太郎氏らに導かれ、戸来村を経由して宇樽部に入り、十和田湖畔で6日ほど過ごしています。

宇樽部では、五戸出身で宇樽部開拓の祖三浦泉八（道太郎の父）宅に泊まっています。私費3千円を投じたともいわれる泉八の宇樽部開拓を讃えた本の中で、『泉八の生涯にもっとも光彩を添えたのは大町桂月の来遊であろう』と記されています。

写真は、その訪問のときに十和田湖からの帰路の途中、三本木で写したもので後列左から太田吉司、桂月、春汀、江渡省三。前列左から平福百穂、道太郎。中央の少年が、泉八の孫、後の衆議院議員で農林大臣を務め、そしてこの碑を建立した三浦一雄氏です。桂月の紀行文の中で「三十日、休屋さしてゆく。道太郎の子一雄氏…あらたに加わる。」と一雄少年が桂月の旅に同行したことが記されています。碑は、五戸から宇樽部に達する道路を作り、開発をした祖父三浦泉八を顕彰したもので、碑文は桂月の紀行文です。

場所は、宇樽部のバス停「国民宿舎前」近くの広場にあります。

問い合わせ先

総務課（☎㉓5111内線156）